

米国農務省穀物等需給報告(2021年9月10日発表のポイント)

令和3年9月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、9月10日(現地時間)、2021/22年度の5回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2021/22年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 27億8,511万トン(対前年度比 2.8%増)
- ② 消費量: 27億9,132万トン(対前年度比 2.2%増)
- ③ 期末在庫量: 7億8,888万トン(対前年度比 0.8%減)
期末在庫率: 28.3%(対前年度差 0.9ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、カナダ、アルゼンチン等で引き下げられたが、豪州で生育条件に恵まれ史上3位の生産量となり、インドで5年連続増産となること等から、上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国で飼料用需要が引き上げられたこと等から、史上最高の見通し。世界の生産量は、消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見込み。

- ① 生産量: 7億8,028万トン(対前年度比 0.6%増)・・・EU、ウクライナ、英国、中国、アルゼンチン等で増加、ロシア、カナダ、米国等で減少
- ② 消費量: 7億8,963万トン(対前年度比 1.1%増)・・・EU、インド、英国等で増加、ロシア等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億8,322万トン(対前年度比 3.2%減)・・・米国、中国、ロシア等で減少
期末在庫率: 35.9%(対前年度差 1.6ポイント減)

とうもろこし : 世界の生産量は、米国で単収、収穫面積がそれぞれ前月から0.1トン/ヘクタール、24万ヘクタール引き上げられ、中国やアルゼンチンでも引き上げられたことから上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、前月から米国の飼料用需要が価格の下落見通し等から引き上げられ、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。なお、米国の需給は、消費量、輸出量の上方修正はあるが、生産量の上方修正から、期末在庫量、在庫率とも上方修正された。

- ① 生産量: 11億9,777万トン(対前年度比 7.2%増)・・・ブラジル、米国、中国、ウクライナ、アルゼンチン等で増加(前月に比べ米国、中国、アルゼンチンで上方修正)
- ② 消費量: 11億8,662万トン(対前年度比 4.4%増)・・・中国、ブラジル、米国等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億9,763万トン(対前年度比 3.9%増)・・・米国、中国、ブラジル等で増加(前月に比べ中国、米国で上方修正)
期末在庫率: 25.1%(対前年度差 0.1ポイント減)

コメ(精米) : 世界の生産量は、インドで収穫面積が引き上げられ史上2位の生産量となること等から上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、インド等で引き下げられるも史上最高となる見通し。世界の期末在庫量は、インドで引き上げられたが、世界の生産量が消費量を下回ることから、期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 5億795万トン(対前年度比 0.3%増)
- ② 消費量: 5億1,207万トン(対前年度比 2.0%増)・・・中国、インド等で増加(前月に比べインドで下方修正)
- ③ 期末在庫量: 1億8,185万トン(対前年度比 2.2%減)・・・中国等で減少(前月に比べインドで上方修正)
期末在庫率: 35.5%(対前年度差 1.5ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、米国で収穫面積が前月から12万ヘクタール引き下げられたが、単収が0.03トン/ヘクタール引き上げられたため、前年度を上回ること等から、史上最高となる見通し。一方、世界の消費量は、米国で大豆かすの需要の引き下げにより下方修正されたが、前年度を上回る見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。

- ① 生産量: 3億8,442万トン(対前年度比 5.8%増)・・・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加
- ② 消費量: 3億7,837万トン(対前年度比 3.6%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,889万トン(対前年度比 4.0%増)・・・中国等で増加(前月に比べ中国で上方修正)
期末在庫率: 26.1%(対前年度差 0.1ポイント増)

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2021年9月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,677.14	2,709.24	2,785.11	2.8%	16.4	2,295.7
消費量		2,671.84	2,730.09	2,791.32	2.2%	5.5	2,284.3
期末在庫量		815.94	795.09	788.88	▲ 0.8%	28.7	479.9
期末在庫率		30.5%	29.1%	28.3%	▲ 0.9	1.0	21.0%
小麦							
生産量		763.58	775.83	780.28	0.6%	3.4	660.5
消費量		748.03	780.87	789.63	1.1%	3.0	680.0
期末在庫量		297.61	292.56	283.22	▲ 3.2%	4.2	181.1
期末在庫率		39.8%	37.5%	35.9%	▲ 1.6	0.4	26.6%
粗粒穀物							
生産量		1,415.27	1,427.18	1,496.89	4.9%	12.5	1,159.2
消費量		1,430.66	1,447.20	1,489.63	2.9%	4.7	1,139.5
期末在庫量		336.58	316.56	323.82	2.3%	12.8	175.8
期末在庫率		23.5%	21.9%	21.7%	▲ 0.1	0.8	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,118.66	1,117.11	1,197.77	7.2%	11.7	898.8
消費量		1,135.17	1,136.72	1,186.62	4.4%	4.4	877.4
期末在庫量		306.09	286.48	297.63	3.9%	13.0	144.8
期末在庫率		27.0%	25.2%	25.1%	▲ 0.1	1.0	16.5%
コメ(精米)							
生産量		498.29	506.23	507.95	0.3%	0.5	476.1
消費量		493.15	502.02	512.07	2.0%	▲ 2.2	464.8
期末在庫量		181.75	185.97	181.85	▲ 2.2%	11.7	123.0
期末在庫率		36.9%	37.0%	35.5%	▲ 1.5	2.4	26.5%

【大豆】

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 前月差		
生産量		339.73	363.27	384.42	5.8%	0.8	269.0
消費量		358.44	365.06	378.37	3.6%	▲ 0.2	265.2
期末在庫量		95.90	95.08	98.89	4.0%	2.7	58.1
期末在庫率		26.8%	26.0%	26.1%	0.1	0.7	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 10, 2021)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2021年9月10日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22 (予想)	2021/22		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		417.89	431.48	447.90	3.8%	7.2	353.0
消費量		355.75	354.25	358.01	1.1%	2.4	317.1
輸出货量		79.82	107.28	97.93	▲ 8.7%	2.0	51.6
期末在庫量		80.73	56.98	56.04	▲ 1.6%	4.2	44.2
期末在庫率		18.5%	12.3%	12.3%	▲ 0.1	0.8	12.0%
小麦							
生産量		52.58	49.69	46.18	▲ 7.1%	-	61.3
消費量		30.44	30.45	32.28	6.0%	0.1	37.8
輸出货量		26.37	26.99	23.81	▲ 11.8%	-	27.5
期末在庫量		27.99	22.97	16.73	▲ 27.2%	▲ 0.3	19.5
期末在庫率		49.3%	40.0%	29.8%	▲ 10.2	▲ 0.6	29.9%
粗粒穀物							
生産量		359.43	374.57	395.67	5.6%	7.4	285.3
消費量		320.73	318.95	321.07	0.7%	2.4	275.5
輸出货量		50.46	77.32	71.23	▲ 7.9%	2.0	20.7
期末在庫量		51.83	32.63	38.23	17.2%	4.7	23.5
期末在庫率		14.0%	8.2%	9.7%	1.5	1.1	7.9%
とうもろこし							
生産量		345.96	360.25	380.93	5.7%	6.3	273.2
消費量		309.55	309.77	313.07	1.1%	1.9	263.0
輸出货量		45.13	69.73	62.87	▲ 9.8%	1.9	18.5
期末在庫量		48.76	30.15	35.77	18.6%	4.2	20.9
期末在庫率		13.7%	7.9%	9.5%	1.6	1.0	7.4%
コメ(精米)							
生産量		5.88	7.23	6.05	▲ 16.3%	▲ 0.2	6.3
消費量		4.59	4.85	4.67	▲ 3.7%	▲ 0.1	3.8
輸出货量		2.99	2.98	2.89	▲ 3.0%	-	3.4
期末在庫量		0.91	1.39	1.09	▲ 21.6%	▲ 0.1	1.2
期末在庫率		12.0%	17.8%	14.4%	▲ 3.3	▲ 1.0	16.1%

【大豆】

項目	年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22 (予想)	2021/22		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		96.67	112.55	119.04	5.8%	1.0	82.8
消費量		61.85	61.10	62.57	2.4%	▲ 0.7	48.6
輸出货量		45.70	61.51	56.88	▲ 7.5%	1.0	36.1
期末在庫量		14.28	4.76	5.04	5.9%	0.8	3.8
期末在庫率		13.3%	3.9%	4.2%	0.3	0.7	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 10, 2021)
「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向 (2021年)

- 小麦 : 7.15 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.40 ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における2021年9月第1週末のセツルメント価格)。

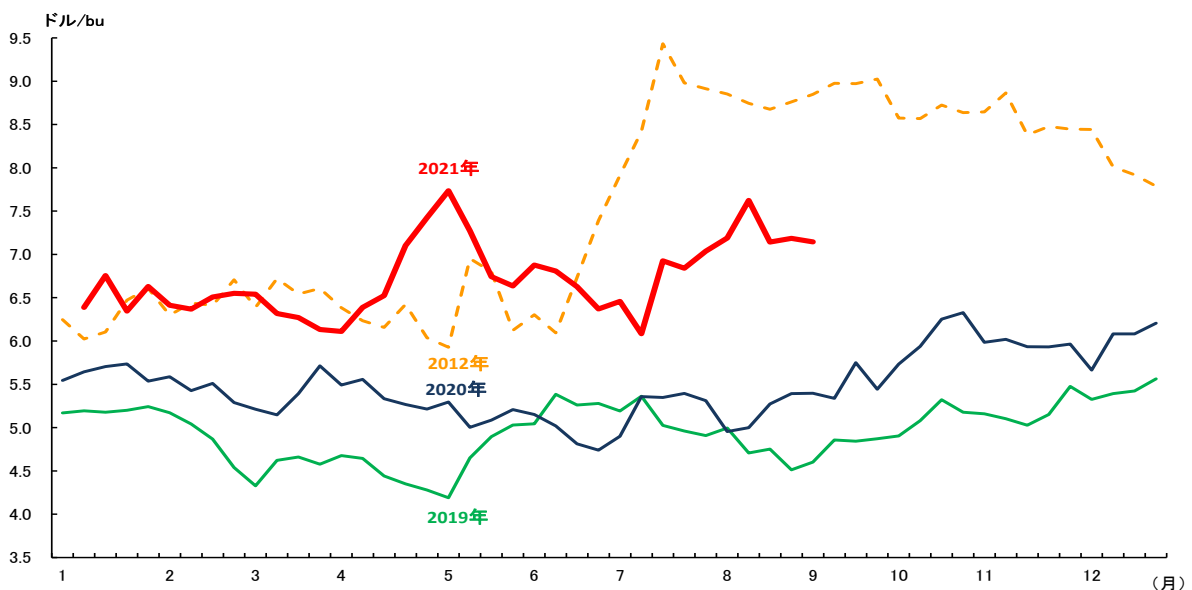
2021年1月に入り、大豆やとうもろこしの価格上昇や、USDA(米国農務省)の1月需給報告での世界や米国の期末在庫量の下方修正から、6ドル/bu台後半に一時的に値を上げたものの、1月下旬から2月初旬にかけ、ロシアの3月からの輸出税拡大等から、6ドル/bu台半ばで推移した。2月上旬には、USDA2月需給報告での米国産小麦在庫量の据置等から一時6ドル/bu台前半に値を下げたものの、2月下旬にかけ、黒海地域や米国の寒波による影響懸念から、6ドル/bu台後半に値を上げた。2月末から3月上旬にかけて、米国冬小麦地帯の記録的な寒波と乾燥天候に下支えされ、6ドル/bu台半ばで推移したものの、3月中旬以降、米国冬小麦生産地での降雨による作柄改善見通しやドル高の影響から、6ドル/bu前後に値を下げた。

3月末には、米国作付意向面積結果によるとうもろこし、大豆の価格上昇から、6ドル/bu台前半に値を戻し、4月初旬以降も、米国の春・冬小麦地帯の乾燥天候や、カナダの作付意向面積の減少、とうもろこし価格上昇の追随により上昇し、5月上旬に7ドル/bu台後半まで値を上げた。5月半ばから同月末にかけ、USDA5月需給報告での市場予想を上回る米国産小麦の期末在庫量、春小麦生産地帯の降雨予報、とうもろこし価格の下落等から6ドル/bu台半ばに値を下げた。

6月に入り、上旬は継続する春小麦地帯の乾燥天候から、6ドル/bu台後半で推移したものの、同月中旬から下旬にかけ、世界的な小麦の増産見通しや、とうもろこし、大豆価格の低下から6ドル/bu台前半に値を下げた。6月末に、米国作付面積報告で上昇したとうもろこし、大豆価格に追随し、6ドル/bu台後半まで値を上げた。

7月に入り、米国産冬小麦の収穫の進展や、とうもろこし価格の低下等から、6ドル/bu台前半まで値を下げたものの、USDA7月需給報告で米国産小麦の生産量予測が市場予測を大幅に下回ったこと、プレーンズ北部の春小麦生産地域の高温・乾燥天候の影響懸念から7ドル/bu前後に値を上げた。

8月に入り、一時とうもろこし価格の低下から、7ドル/buに値を下げたものの、USDAの需給報告でロシア、カナダの生産量見通しが大幅に引き下げられたことから、中旬には7ドル/bu半ばまで値を上げた。その後、とうもろこし、大豆価格の低下等から値を下げ、8月末現在、7ドル/bu前後で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし：5.08 ドル/bu （前年同時期の価格：3.47 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における2021年9月第1週末のセツルメント価格）。

2021年1月に入り、アルゼンチンのとうもろこし輸出停止の発表とストライキ、順調な米国産の輸出、USDA 1月需給報告での米国や南米の生産量の下方修正等から5ドル/bu 台前半ばまで値を上げた。その後、南米の降雨から1月下旬に一時5ドル/bu 前後に値を下げたものの、好調な中国向け輸出から、1月末に5ドル/bu 台前半ばまで値を上げた。

2月に入り、中国向けの好調な米国産輸出の一方、USDA 2月需給報告で米国産の在庫予測が市場予想を上回ったこと等から5ドル/bu 台前半に値を下げた。その後、ブラジルの冬とうもろこしの作付遅延等から、2月末に5ドル/bu 台前半ばに値を上げた。

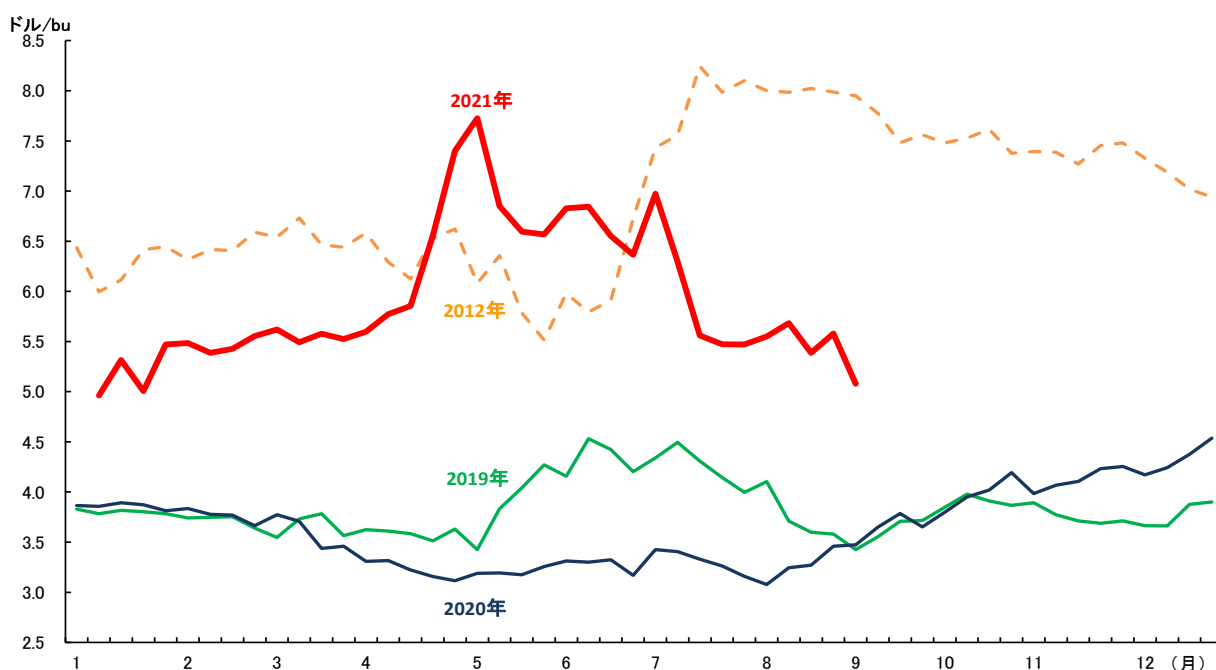
3月初旬から4月初旬までは、一時3月下旬にドル高等から5ドル/bu 台前半に値を下げたが、南米の天候の改善も、米国産とうもろこしの中国向けを中心とした順調な輸出、予想を下回る3月末の米国作付意向面積から、5ドル/bu 台前半ばで推移した。

4月上旬以降、好調な輸出需要とエタノール需要の回復、米国中西部の低温・乾燥による作付け・生育への影響懸念やブラジルの乾燥天候による冬とうもろこしへの影響懸念等から上昇し、5月上旬には7ドル/bu 後半まで値を上げた。その後、米国中西部の天候回復と作付けの順調な進展等から6ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、好調な輸出需要から5月末に再び6ドル/bu 台前半ばまで値を上げた。

6月に入り、米国中西部の高温・乾燥、ブラジルの降雨不足から、6月上旬に更に7ドル/bu 前後まで値を上げた。同月中旬から下旬にかけては、米国中西部の降雨や順調な生育から6ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、同月末の米国作付面積報告で予想を下回る作付面積となったことから、6月末に7ドル/bu 台前半に値を上げた。。

7月に入り、米国コーンベルト北西部の高温・乾燥による作柄への影響懸念があったものの、USDA 7月需給報告で米国産とうもろこしの生産量予測が上方修正されたこと、主要産地での降雨や良好な天気予測等から5ドル/bu 台前半ばに値を下げた。

8月に入り、米国コーンベルト北西部の高温・乾燥やUSDAの8月需給報告で米国の生産量予測が市場予測を下回ったこと、干ばつや霜害によるブラジル産冬とうもろこし生産量予測の下方修正に支えられ、5ドル/bu 台前半ばで推移したものの、8月末の米国主要産地の降雨により値を下げ、8月末現在、5ドル/bu 台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

●コメ：424ドル/トン（前年同時期の価格：535ドル/トン）
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における2021年9月の第1水曜日のFOB価格。）

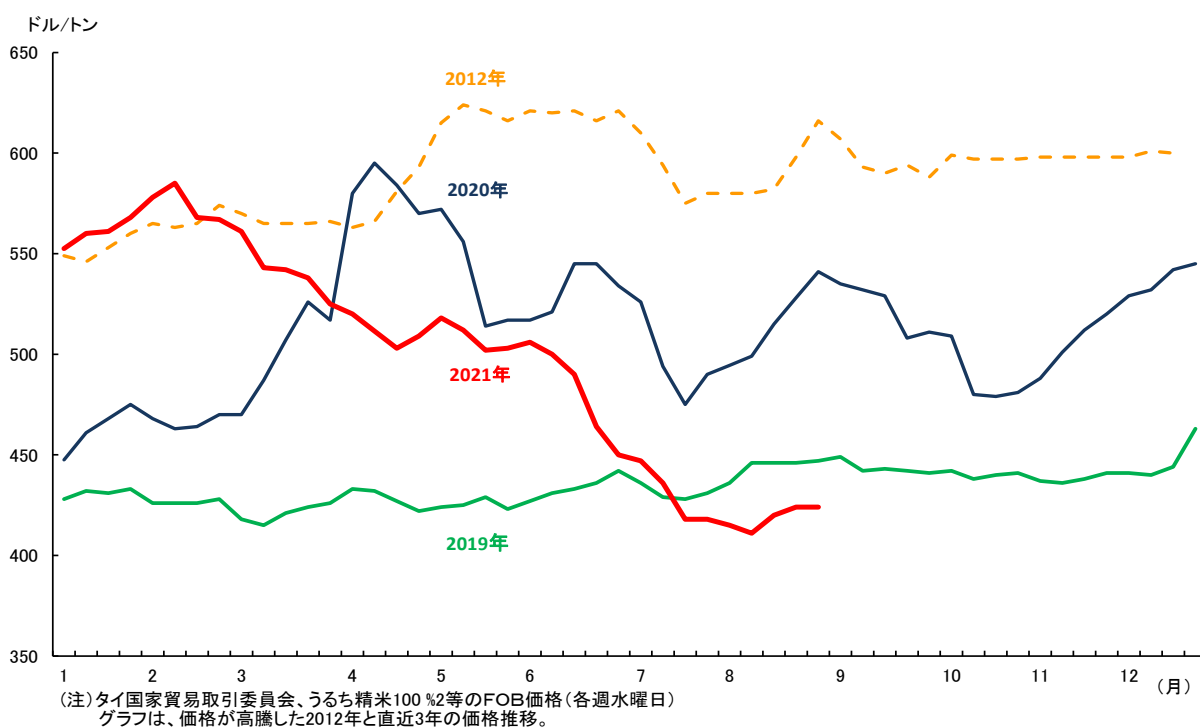
2021年1月以降、輸出用コンテナ不足による船積みの遅延から新規需要が低下したものの、パーツ高やバルク船等への輸送手段の切替え、遅延していた船積みの開始による貿易業者のコメの調達から2月上旬に580ドル/トン台半ばまで上昇したものの、アジア諸国の旧正月で輸出が低調となったことや、乾季米の流通が期待されたことから2月下旬には560ドル/トン台半ばまで値を下げた。

3月から4月中旬にかけても、乾季米の収穫進展による新穀の市場流通の開始に加え、新型コロナウイルス感染症拡大による消費の減退等で国内コメ価格が低下したこと、海外需要が落ち着いていることに加えて、タイパーツ安やタイ正月（ソクラーン）を控えた低調な輸出需要から、500ドル/トン前後に値を下げた。

5月に入り、アフリカからの需要の増加やパーツ高から一時520ドル/トン近くまで上昇したものの、6月末にかけて、世界的なコンテナ不足や高騰する運賃、パーツ高などによる価格競争力の低下に加えアフリカからの需要の減少から、450ドル/トン前後に値を下げた。

7月に入り、新型コロナウイルス感染拡大によるASEAN諸国の輸入需要の低迷の一方、同月最終週のアフリカからの新規引き合いから、これまでより動きが活発となったものの、引き続き世界的なコンテナ不足や高い海上コンテナ運賃による船積みの遅れ、パーツ安による輸出価格の下落等から7月下旬には410ドル/トン台後半に値を下げた。

8月に入り、パーツ安や海上コンテナ運賃の高騰による需要の低迷から、8月上旬に410ドル/トン台前半まで値を下げたが、価格下落によるアフリカ、ASEAN諸国からの新規需要により値を上げ、8月下旬現在、420ドル/トン台半ばで推移。



● 大豆：12.83ドル/bu（前年同時期の価格：9.70ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2021年9月第1週末のセツルメント価格）。

2021年1月に入り、順調な米国産大豆の中国向け輸出、USDA 1月需給報告での米国やアルゼンチンの生産量の下方修正等から14ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、南米の降雨による作柄改善期待から1月下旬に13ドル/bu台前半に値を下げたものの、好調な中国向け輸出やブラジルの収穫遅延懸念から、1月末に13ドル/bu台後半に値を上げた。

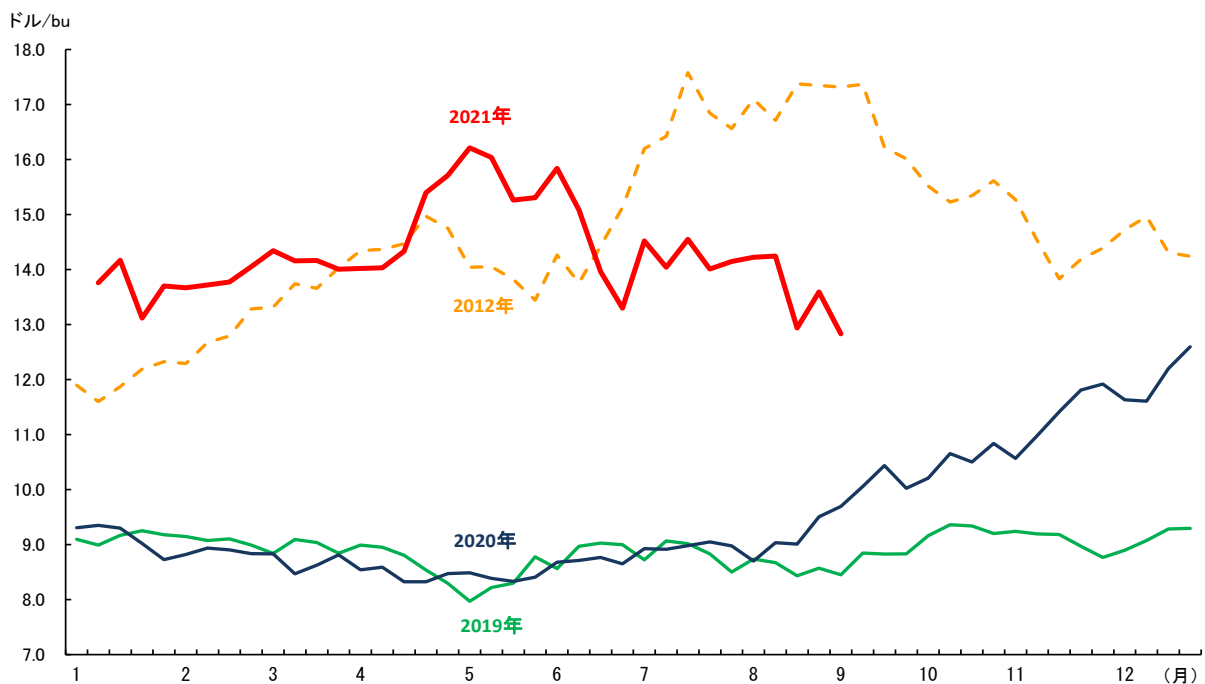
2月に入り、好調な中国向け米国産の輸出から一時14ドル/bu前後に値を上げたものの、USDA 2月需給報告で南米の生産見通しが据え置かれたこと等から、13ドル/bu台半ばに値を下げた。その後、ブラジルの収穫が開始された一方で、降雨による収穫遅れやアルゼンチンの乾燥懸念等により3月上旬に14ドル/bu台半ばに値を上げたものの、南米の天候改善等から13ドル/bu後半に値を下げた。3月中旬以降は、堅調な大豆油需要から一時14ドル/bu前半に値を上げたものの、輸出需要が低調となり13ドル/bu台半ばに値を下げた。3月末には、予想を下回る米国作付意向面積から14ドル/bu台前半に値を戻した。

4月に入り、USDA 4月需給報告でのブラジル産の豊作見込から一時13ドル/buまで値を下げたものの、4月中旬から、米国中西部での低温・乾燥による作付・生育への影響懸念、米国のタイトな大豆需給や堅調な大豆油価格等から上昇し、5月中旬には16ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、ブラジルで収穫がほぼ終了し豊作が確定したこと、米国中西部の天候回復と作付けの順調な進展等から、15ドル/bu台前半に値を下げた。

6月に入り、米国中西部の高温・乾燥や米国のタイトな大豆需給、大豆油価格の上昇から、6月上旬に15ドル/bu台後半に値を上げたものの、同月中旬から下旬にかけて、ブラジルからの新穀大豆の輸出の開始や米国中西部の降雨、米国産の順調な生育から、13ドル/bu台前半に値を下げた。その後、同月末の米国作付面積報告で予想を下回る作付面積となったことから、14ドル/bu台半ばまで値を上げた。

7月に入り、米国コーンベルト北西部の高温・乾燥による作柄への影響懸念があったものの、主要産地での降雨や良好な天気予測、収穫が終了したブラジルの豊作見通しから値が上下し14ドル/bu台前半で推移。

8月に入り、米国コーンベルト北西部の高温・乾燥や中国向け新規輸出契約から、8月中旬には14ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、ドル高や8月末の米国主要生産地の降雨により値を下げ、8月末現在、13ドル/bu前後で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21	111.66	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41	108.12	108.86
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
109.18	109.34	109.96	107.29	107.93	107.31	107.56	106.78	106.04	105.74	105.24
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
104.40	103.82	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80	41.75	41.25	39.75	51.13	50.56	51.02	45.78	37.60
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
37.68	39.40	36.42	35.87	31.16	28.95	34.73	42.25	45.15	40.86	41.51
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
40.94	42.39	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

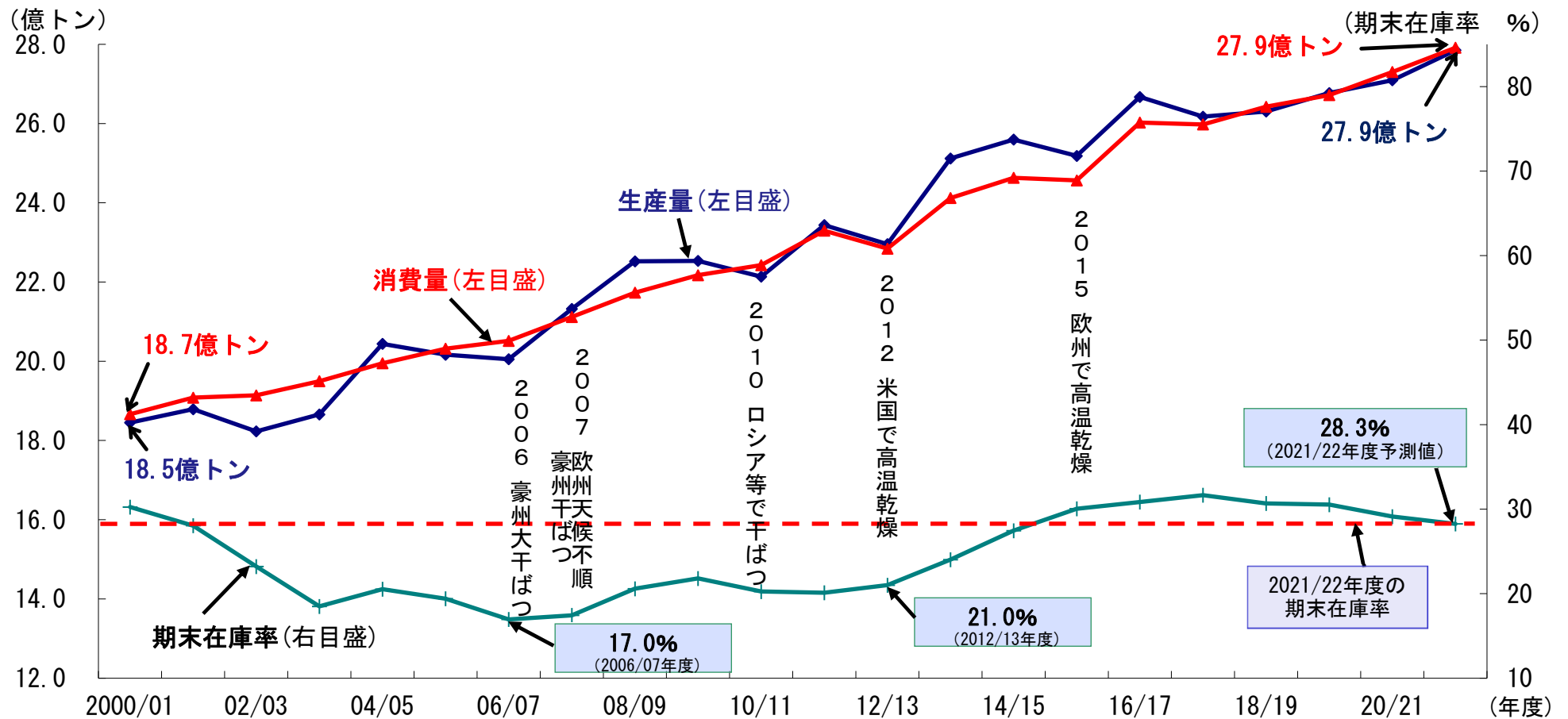
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.85
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	58.17	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	56.97	54.01	57.07
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
59.80	57.53	50.54	30.45	16.70	28.53	38.31	40.77	42.39	39.63	39.55
11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
41.35	47.07	52.10	59.06	62.36	61.69	65.15	71.35	72.43	67.70	

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和3年8月, 120頁
但し、2021年8月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 2021)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。